

事業報告書

一般社団法人 豊川青年会議所

2020年度 副理事長兼

人が交わり生まれる力室 室長

氏名 片岡秀貴



<本年度を振り返って>

卒業生として最後の年に副理事長という役職を与えていただき、自分に務まるかどうかの不安ありましたが、一年間やり遂げる事ができました。コロナ禍での活動となり、両委員長がどの様な形で事業を実施する事ができるかと自分も悩む事が多くありましたが、一年を通してどの場面でも最後にあるのは「人」と「人」とのつながりや「人」が持つ力であると感じることが出来ました。対面であり、オンラインであっても人と人が言葉を交わし、理解し共に行動して行くことで大きな力が生まれ、どんな困難や難題にも立ち向かって行くことが出来る、また、その力は組織や地域を巻き込んでさらに大きな力になって動いていくことができると体感をする事が出来ました。

<人間力向上委員会>

2月例会は通常通り実施できましたが、6月例会はコロナウイルスにより11月の実施となり、一年間を通じて活動ができました。2月から11月と間が空いていましたが、その中でも委員会メンバーの委員会への出席率やモチベーションの高さを保つ事が出来たのは、ひとえに委員長の委員会運営の仕方や行動によるものだと思います。室長という立場ではありますが、委員長が中心となり舵を切る事で、委員会メンバーが一丸となり、運営や事業がより良いものになること改めて感じる事が出来、自身の学びとなりました。

<会員交流会・出向者支援委員会>

今年度はコロナウイルスの影響により、担当する事業に対して延期や中止の決定事項を伝えることがギリギリまで出来なかつたりとした事があり、委員長をはじめ、委員会メンバーには振り回してしまう結果になってしまったことを深く反省致します。しかし、急な対応をお願いしたりしても、委員長が対応してくれ、そこから委員会メンバーがアイデアを出してくれたり、委員会が一年間止まることなく動いていた事がとても印象的であり、改めて、人と人の繋がりや取り組む姿勢の大切さを感じる事ができ

ました。

<むすびに>

一年前に作成した副理事長基本方針に「1 クールのレギュラーよりも、1 回の伝説」と言う自分の好きな言葉をむすびに書かせていただきました。例年とは違い、困難な状況下での JC 活動となりましたが、その中でも全メンバーが一丸となって活動できたことは自分の中では 2020 年度が伝説に、最高の一年になったと思います。自分も与えて頂いた役職に取り組み、その一翼を担う事ができたとメンバーの皆様に思っていたければ幸いです。一年間、ありがとうございました。

今年卒業で 7 年間の JC 生活も振り返るとあつというまではありましたが、多大なご迷惑をおかけした皆様に「後悔と反省はしますが学習はしません」とお伝えし、卒業させていただきます。本当にありがとうございました。